

2023年6月20日

学校法人 三幸学園
大阪医療秘書福祉&IT 専門学校
校長 山本 稔 殿

学校関係者評価委員会
委員長 杉谷 肇

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 杉谷 肇（宗教法人 在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院
総務課 部長）
- ② 岡田 智之（社会福祉法人 邦寿会 特別養護老人ホーム 高殿苑 施設長）
- ③ 川瀬 澄香（公益財団法人 浅香山病院 医事二課 副主任：2012年度卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年5月30日（会場 大阪医療秘書福祉&IT 専門学校 304教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度学校法人 三幸学園 大阪医療秘書福祉 & IT 専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者:副校長 満重 美絵

学校関係者評価報告責任者:学校関係者評価委員会委員長 杉谷 肇

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理・介護福祉士を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・現場(社会)で通用する人材の育成

教育目標に沿った教育を行う中で、社会人基礎力を意識して人材育成をしているが、卒業後輩出していく業界にそった教育や、そこを見据え、イメージさせる教育・考え判断させる教育が弱くなっている。規律・礼儀・マナー指導だけでなく主体的に動ける人材育成に更に力をいれていく。

・教育質の向上

コロナ禍もあってか体調不良を理由に欠席をする生徒が複数見られた。令和3年度よりは出席率の改善はみられたが、職員・生徒ともに意識の改善が必要だと感じる。強制力で授業に参加させるのではなく、学ぶ意欲の醸成、学びたくなる授業の展開を更に意識をしなくてはならないと感じる。そのためにも例年結果の出ていない授業アンケート結果の改善(授業の質の向上)・検定合格率(学びの意欲)を更に意識し取り組んでいく。

・学生の受け入れ募集

近年の学校の課題となっており、募集の低迷が改善できていない状況である。広報活動も重要ではあるが、改めて、業界の魅力や現場で求められる力を理解し、学校運営に反映してくことで、学校の質・価値の向上を図っていくことも学生募集を改善していくことの一つの要因と考え取り組みを継続していく。

② 学校関係者評価委員会コメント

杉谷委員より(医療秘書科・くすりアドバイザー科・介護福祉科・診療情報管理士科・医療保育科・医療事務科)

医療現場でも業務の自動化を進めているが、その前にどの業務を自動化するか精査しなければならない。まずそこに膨大な時間がかかる。医療事務員などは将来 AI に取って代わられると言われているが、すぐにそうなるとは思えない。電子カルテが導入された時、医事課の職員が削減されるのではという話が出たが、全くそんなことはなく、機器の管理等でより人手が必要になった。診療報酬改定が 2 年に 1 回あり、制度も複雑なため、医療事務員は業界から求められる人材だと学生に伝え続けていきたい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--|----|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) | 4 |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 3 |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか | 3 |
| 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 |

① 課題

- ・入学前の保護者説明会をオンデマンドで実施をしているが視聴率が伸びていない現状がある。
- ・学校運営と社会経済のニーズのミスマッチが起きている部分が考えられる。社会のニーズと学校の運営を合わせていく努力が足りていない。これまで多く学生が集まっていた学科だけでなく、幅広い学科の充実を図っていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・本年度(令和5年)は入学希望をする前のオープンキャンパスでも学校の理念等を伝える「保護者説明会」を設定し、更なる理解向上に努めている。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員より(介護福祉科)

業界問わず、なぜその職種を目指しているのか、理由を明確に述べられる人が少なくなっている。社会人になれば、会社の理念を理解して職員が同じ方向を向いて働くことはとても重要であるため、学校や業界の考えを理解できるような機会を都度設けたほうがよい。

(2)学校運営

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--|----|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 事業計画に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 3 |
| 人事、給与に関する制度は整備されているか | 4 |
| 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 4 |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 |
| 教育活動に関する情報公開が適切になされているか | 4 |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3 |

① 課題

- ・引き続きの課題ではあるが情報システム化の業務効率化が図られていなかった。
- ・人事異動や組織編制の不備により、組織の人のピラミッドが構築できておらず、意志決定などが一極化している。規則等明確化し各々が判断できる環境を作っていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・常勤・非常勤含めた全教職員で情報を共有し、業務に取り組めるようにできるように teams と学園指定のメールアドレスを活用し、タイムリーで漏れのない情報共有を図っていく。
- ・教職員の勤務状況を確認できる Onetime を活用し、業務依頼を行っていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

杉谷委員より(医療秘書科・くすりアドバイザー科・介護福祉科・診療情報管理士科・医療保育科・医療事務科)
組織を運営するにあたり情報の共有化は重要である。人によって物事の捉え方は異なるため、伝達の仕方に注意しながら勤務形態や規模に合わせて、引き続き連携を図ってほしい。

岡田委員より(介護福祉科)

病院や施設に関する情報は教員間でしっかり引き継いだ上で訪問してほしい。現場の話を引きだせる教員の育成が求められる。

川瀬委員より(医療秘書科・くすりアドバイザー科・介護福祉科・診療情報管理士科・医療保育科・医療事務科)

今後の連携のためにも、医療機関と学校がこれまでどのような付き合いをしていて、卒業生がどの程度就職しているかなどは学校側で把握しておく必要がある。

(3)教育活動

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|----|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 3 |
| 目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 |
| 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 |
| 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 4 |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか | 4 |
| 資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 |
| 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか | 4 |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 |
| 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 |

① 課題

- ・教育課程の編成はされているが、教科間連携において非常勤が授業を担当している教科では難しい部分もある。もう少し運営側の教科間の橋渡しなどを行い、連携を深めていく必要がある。
- ・現状では講師陣は適切であるが、講師の定年等の問題も抱えており、教育の質の担保のためにも講師の育成も課題である。

② 今後の改善方策

- ・積極的な人材採用と、新規採用者の研修の実施
- ・教育課程編成委員会でのご意見を分野統一のものにし、確実に教育課程へ取り込んでいく体制の整備

③ 特記事項

- ・教育開発部のオンデマンド教材などで、常勤に限らず、非常勤の授業質向上を図る機会が増えている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(4)学修成果

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか | 3 |
| 資格(免許)取得率の向上が図られているか | 4 |
| 退学率の低減が図られているか | 3 |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 |

① 課題

- ・就職のサポート・退学率の低減が、教職員個人の力量に委ねられている部分があり、学校全体で改善・向上するための体制整備が必要である。
- ・卒業生支援が手薄になっている。現状の把握をできる環境づくりが必要である。

② 今後の改善方策

- ・就職の組織だったサポート体制の構築
- ・「こころの相談室」を周知・活用での生徒サポートの環境整備
- ・同窓会の開催で、卒業後の生徒状況把握状況の改善

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

川瀬委員より(医療秘書科・くすりアドバイザー科・介護福祉科・診療情報管理士科・医療保育科・医療事務科)
卒業生支援についてはまだ認知度が低いように思う。学校からこまめな発信があれば卒業生も利用しやすい。また、卒業後も検定や資格試験の勉強を継続している人もいる。一人で勉強するより、学校からの支援があればモチベーション維持になり、卒業生との関わりも増えるのではないかと。

(5) 学生支援

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|----|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 3 |
| 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 |
| 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の生活環境への支援は行われているか | 3 |
| 保護者と適切に連携しているか | 3 |
| 卒業生への支援体制はあるか | 3 |
| 中途退学者への支援体制はあるか | 3 |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 |
| 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 |

① 課題

- ・就職率を上げることに意識が向きがちで就職をしていくことへの意識づけや指導が弱い部分がある。
- ・保護者への連絡がよくないことでの連絡が多くなり、前向きな連携・予防のための連携ができていない。
- ・同窓会の開催や、卒業生が学校に相談しやすい環境づくりがなされていない。

② 今後の改善方策

- ・前項でも記載したが、「こころの相談室」の利用を学生だけでなく、教員も利用できる環境を作ることで、教職員の対応力向上を図っていく。
- ・就職チームにて、外部講話の積極的実施、計画をたてた就職支援サポートを行う。
- ・年度初めに保護者の方全員に担任よりご挨拶のお電話を入れ、連携を取りやすい関係づくりを行う。

③ 特記事項

- ・姉妹校である飛鳥未来高校・飛鳥未来きずな高校では、専門学校の教員が出向キャリア形成の授業を実施している。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(6)教育環境

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--|----|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 |
| 学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 |
| 防災・安全管理に対する体制は整備されているか | 3 |

① 課題

- ・備蓄・避難経路など整理されているが、避難訓練等での意識の向上への取り組みが薄い。
- ・コロナ禍が改善する中でインターンシップの機会が増えてきたが、現場に出す前の教育・戻ってきた後の振り返りが弱い傾向にある。

② 今後の改善方策

- ・コンシェルジュコンテスト(現場実践シミュレーション)との連携で実習前・事後指導の質の向上を図る。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員より(介護福祉科)

現場でもあらゆる機器の導入が進められているが、扱いに慣れず職員に浸透していないところもある。機器を有効活用するには、基本的な介護技術を理解しておく必要がある。在学中にしっかり技術を修得した上で、様々な機器に触れて学びを深めてほしい。現場で働き始めたとき、必ず役立つ知識である。

(7)学生の受入れ募集

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 学生募集活動は、適正に行われているか | 4 |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3 |
| 入学選考は、適性に行われているか | 4 |
| 学納金は妥当なものとなっているか | 4 |

① 課題

・社会のニーズ・高校生のニーズに合わせた情報提供、タイムリーな学校教育活動の提供が弱い傾向にある。

② 今後の改善方策

・日頃の教育を SNS など発信力があるものでしっかりと訴求していく。
 ・教職員の日頃の教育の理解と実績をしっかりと提供していく力を身に付けていく。教育と広報の連携。

③ 特記事項

・特になし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

川瀬委員より(医療秘書科・くすりアドバイザー科・介護福祉科・診療情報管理士科・医療保育科・医療事務科)
 医療行為の細かいニュアンスを汲み取り、カルテを正しく読むという請求業務は一部簡素化が出来ても、完全に機械任せにすることは出来ない。同じように対患者とのやり取りも人の手というものは必要不可欠である。医療・福祉業界のやりがいをどんどん発信してほしい。

(8)財務

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 4 |
| 自己評価結果を公開しているか | 4 |

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|----|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3 |
| 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか | 3 |
| 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 4 |

① 課題

・社会・地域貢献など外に目を向ける教育が弱い傾向にある。

② 今後の改善方策

- ・企業と連携した地域連携等の取り組みを実施していく
- ・外に目を向けた教育の一環として、学会の運営・関係機関でのボランティアの機会を創出していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員より(介護福祉科)

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症に移行してからは、利用者との面会制限を少しずつ緩和している。ボランティアの受け入れについてもこれから徐々に再開していくため、学生に地域貢献の支援を積極的に行ってほしい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価の結果、概ね健全な学校運営ができていると言える。但し、現場経験の少ない教員に関しては、現場に足をはこんだり、業界の考えを理解する機会を設け、教員間の力の差を埋める必要がある。現場から求められる人材の育成を目指し、よりよい教育のため引き続き取り組んでいく。